

第15回栃木活性化サロン

テーマ「少子高齢化社会における地方都市のまちづくりについて

～スマート+コンパクトシティの取組み～」

◇ゲストスピーカー 宇都宮市 都市整備部
NCC推進課 課長 大根田 厚史 氏

【1.宇都宮市の現状とネットワーク型コンパクトシティについて】

- ✓宇都宮市は、市域面積の約8割が平坦な地形であり、人口の増加やマイカーの普及によって郊外に市街地が拡大している。今後、人口減少が進んだ場合、公共交通や施設の維持が難しくなるなど、**生活の利便性の低下が懸念される。**
- ✓持続的に発展できるまちを実現するため、コンパクトなエリアで日常生活に必要な機能が充足し、**市民生活の質や都市の価値・活力を高める都市空間であるネットワーク型コンパクトシティの形成**に長期的に取り組んでいく。

【2.都市のコンパクト化・ネットワーク化】

- ✓医療・商業施設など生活利便施設を誘導するエリアとして、駅周辺の**都市機能誘導区域**11か所、**市街化調整区域の地域拠点**7か所を設定している。また、公共交通が利用できる利便性の高いエリアである駅周辺やライトライン沿線、幹線バス路線沿線を**居住誘導地域**として定めている。
- ✓誘導するエリアに施設の**新築・建替え等を行う場合は費用の一部を助成している**ほか、ライトラインが開通したことに伴い、ライトライン停留場やバス停留所等の周辺に**コンビニエンスストア等を設置する場合の費用を補助する制度を新設。**

【2.都市のコンパクト化・ネットワーク化（続き）】

- ✓誰もが自動車に頼らず便利に移動できるまちの実現ためにライトライン、バス、地域内交通が連携し、**階層性のある効率的な公共交通ネットワークの形成を目指している。**
- ✓東西の基幹公共交通として輸送力等に優れたライトラインを整備し、それに伴いバス路線の再編を行っているほか、デマンド交通等の地域内交通の導入や公共交通機関の乗り継ぎ施設の整備などに取り組んでいる。

【3.宇都宮駅周辺における公共交通とまちづくり】

- ✓宇都宮駅東側ではライトライン開通に伴い、様々な取り組みを行っている。平石停留場の周辺では、スケートボードやBMX、3×3などのスポーツを中心とした**交流と賑わいの場である東部総合公園「アークタウン宇都宮」の整備**を行っている。また、ゆいの杜地区では、区画整理やライトライン整備等により、多くの戸建住宅が建ち**26年ぶりに小学校が新設される**など魅力ある地域として発展している。
- ✓**宇都宮駅西側へのライトライン延伸を計画**しており、宇都宮駅から教育会館までの5 kmを整備区間としている。ライトラインの西側延伸は都心部を活性化させるための大きなチャンスと捉え、官民が一体となった「都心部まちづくりプラン」を策定し、都心部のまちづくりに取り組んでいる。
- ✓具体的には、「都市機能の強化」として**まちづくりに貢献する民間開発に対する事業費支援等**や「過度な自動車流入の抑制」として**公共交通の走行環境や歩きやすさの向上等**に取り組んでいるほか、「ウォーカブルなまちづくり」として**プレイスメイキングの推進やシェアモビリティの充実**に取り組んでいる。